

支えることと支えられること

相馬市立中村第一中学校 二年 ^{あんべ きき} 安部紗希

「公務員は税金返せ」「国民の税金で生活しているくせに傲慢だ。」インターネットを見ていると、そんな言葉を目にすることがある。読んだとき、私は胸が痛かった。中学生の私が「税」と聞いてまず思い浮かべるのは「消費税」だが、もちろんそれだけではなく、税には多くの種類があり、さまざまな形で私たちの生活を支えている。その一つが「公務員の給料」である。私の父は市役所で働いているので、父の給料も税金から出ている。確かに、買い物のときに「消費税は高いな」と思うことはあるし、働いている人が不満を持つのも理解できる。だが、だからといって「税金返せ」「傲慢だ」といったきつい言葉を投げかけるのは違うのではないか。そう思った私は、父に尋ねてみた。

父は少し笑ってから答えた。「お父さんは、税金泥棒って言われたことがあるよ。正直、すごく傷つくんだ。でもね、立場を変えて考えてみればいいと思うんだ。」父は税金から給料をもらっているが、同時に税を納める立場でもある。つまり「支えられている」と同時に「支えている」人でもあるのだ。これは父に限らない。病院や学校、道路や公園など、私たちの生活は税に支えられており、私たち自身もまた税を通じて誰かを支えている。けれど、人はつい「自分が支えている」という面だけに目を向けがちなのかもしれない。そのとき私は、「ああ、そうか」と心の中でうなずいた。支えられていることを忘れると、感謝の気持ちがなくなり、心ない言葉を言ってしまうのだと、父の言葉から気づいたのである。

父は日ごろから「生活は税金に支えられている。だからこそ、きちんとした仕事で返したい」と話している。その言葉を聞くたびに、私は胸が温かくなる。父が真剣に働く姿は、税を「大切に使おう」という気持ちそのものだと思う。これらの経験から私は、税に対して、「いやいや払うもの」という気持ちではなく、「ありがとう」という感謝の気持ちを持つことが大切だと考えるようになった。支える側は「生活を支えてくれてありがとう」、支えられる側は「大切にに使わせてもらおう」と思えたら、社会はもっと明るくなるはずである。

最近は、インターネットで大人だけでなく学生までもが、納税者であることを理由に公務員や政治家を悪く言っているのを目にする。だが、本当にそれでよいのだろうか。支える側と支えられる側、その両方の立場から税を考え、感謝することが大切だと私は思う。まずは私自身が、その気持ちを忘れずに、友人や家族など身近な人に伝えていきたい。小さな一歩かもしれないが、その思いが広がれば、未来の社会は今より優しく、あたたかいものになっていくと信じている。